

# チェルノブイリの今を見つめ、30年後の未来を考える。

小原一真写真展 Exposure/ Everlasting 2018年10月15日(月)- 11月25日(日)

## Exposure -目に見えない障害

2015年3月に初めてキエフを訪れた私は、翌年に30歳を迎えるウクライナ人女性、マリアとの偶然の出会いを通して、他人の目には見えないチェルノブイリ原子力発電所事故から30年後の被爆の影響を知りました。母親の胎内で被曝をした彼女は、しかし、長年に渡り精神疾患として誤診され、19歳になった時に初めて慢性甲状腺炎(橋本病)という診断を受けました。その後、23歳で甲状腺を取り除いた彼女でしたが、現在も一日10錠から20錠近い錠剤を飲みながら、ホルモンバランスを整え日々の生活を送ります。その行為は彼女が生きている間、ずっと続きます。しかし、それでも健常者のようには生活を送ることが出来ません。彼女は目に見えない障害を抱え、周辺からそれを理解されない環境下で苦しんでいます。私たちが、見ているものは何か見えないものは何か。私は偶然に得た事故で被爆した中判フィルムを使い、目に見えないチェルノブイリの影響を見るための表現を試みました。(世界報道写真展2016「人々の部」1位受賞作品。)

## Everlasting -事故によって生まれた町、そこで営まれる日常、繰り返されていく人々の生と死。

2011年に福島第一原発作業員のポートレートプロジェクトを始めた私が、チェルノブイリを訪れた1番はじめの動機は、30年後の作業員の姿を見てみたいというものでした。事故の翌年にソ連政府によって建設された新しい町、スラブチッチ市は、原発に隣接するプリピャチ市から避難してきた作業員の新しい居住地となり、事故後に敷かれた線路は、新しい町と原発をつなぎ、今でも当時使われた同じ列車が通勤に使用されています。いつ終わるかも未だに分からない作業は、ファミリービジネスのように、親の世代から子の世代、そして、孫の世代へと引き継がれていきます。私は、1組の若いカップルと出会い、彼らを2年間追ひ続けました。原発で働いていたかつての同僚は恋人になり、結婚し、そして、子供が生まれました。衰退するウクライナという国家、収束作業を生業として存続する町、そこで生まれる新しい命。収束とは何か。それを誰が担うのか。作業員の通勤風景、そして日常の様子を通して、人類が今後、向かい合うべく収束作業について考えます。

《関連トークイベント》

## 写真の力が揺らいだ時代の写真表現とは何か? 11月25日(日)14:00-

メディア環境の劇的な変化は写真が持つ一枚の存在感を低下させると共に、同時にジャーナリズムへの信頼性が失われつつある時代において、記録装置として写真に置かれた「真実」なるものへの信頼性も揺らいできています。このような時代に、写真は何を捉え、何を伝えるのだろうか。私自身、そして海外の仕事を紹介しながら、今後の表現について考えます。

小原一真(おばらかずま)1985年、岩手県に生まれる。写真家、ジャーナリスト。戦争、核を主なテーマに独自の方法で表現する。ロンドン芸術大学大学院にてフォトジャーナリズムの修士号を取得。太平洋戦争の被害者を描いた著書「silent histories」が米TIME誌でBest Book 2014に選ばれた他、チェルノブイリを撮影した「Exposure」で世界報道写真賞「人々の部」一位受賞など国際的な賞を多数受賞。その他の著書に「Reset Beyond Fukushima(2012/Swiss)」、「Exposure(2017/Spain)」がある。

<http://kazumaobara.com/>

# 公益財団法人 原爆の図 丸木美術館

5月5日は開館記念日・8月6日はひろしま忌

【常設展】「原爆の図」連作

「水俣の図」

「南京大虐殺の図」

「アウシュビッツの図」

「水俣・原爆・三里塚」

絵本原画、丸木スモ水彩画等

【開館時間】午前9時～午後5時

【休館日】月曜日(月曜祝日の場合は翌平日)

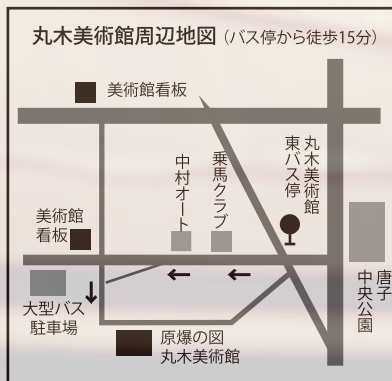
【入館料】大人900円 中高生または18歳未満600円  
小学生400円 団体(20名以上)、60歳以上、  
チラシ持参者、比企地区在住者100円割引  
障碍(しょうがい)のある方は半額

〒355-0076 埼玉県東松山市下唐子1401  
TEL 0493-22-3266 FAX 0493-24-8371

【URL】<http://www.aya.or.jp/~marukimsn/>

【Eメール】[marukimsn@aya.or.jp](mailto:marukimsn@aya.or.jp)

【交通】●東武東上線森林公園駅  
南口よりタクシー10分、徒歩50分  
●東武東上線東松山駅東口より  
市内循環バス唐子コース(日祝運休)  
「丸木美術館東」下車  
●関越自動車道  
東松山インターより小川方面10分  
●東武東上線つきのお駅南口から徒歩27分、詳細は丸木美術館にお問い合わせ下さい



市内循環バス時刻表(日祝運休)			
【行き】		【帰り】	
東松山駅東口発	丸木美術館東発		
8:55	10:00	10:32	11:37
11:05	13:30	14:02	15:02
14:30	15:55	16:27	17:32

※時刻表は変更になる場合があります。(2017年10月現在)

このチラシをお持ちの方は、丸木美術館入館料が100円割引となります。